

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	22H04990	研究期間	令和4(2022)年度～ 令和8(2026)年度
研究課題名	組織空間とゲノム情報の定量的統合による胃癌多様性の新しい定義	研究代表者 (所属・職) (令和6年3月現在)	石川 俊平 (東京大学・大学院医学系研究科 (医学部)・教授)

【令和6(2024)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、我が国の主要ながん種である胃がんを対象に、腫瘍の組織形態像を数値化し、それにゲノム情報、臨床情報や患者背景などを包括的に統合して、胃がん多様性の全体像を把握し、病理組織像にとらわれない胃がんの新たな定義と分類を提案することを目指すものである。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、胃がんの網羅的ゲノム解析と構造化された病理組織像を定量的に統合し、胃がんの再分類に挑戦する意欲的な内容である。ゲノム解析については令和5年度までに予定を超える症例数のデータを収集し、WNT シグナル、クロマチンリモデリングに関わる遺伝子群の変異と免疫の活性化との相関を見いだした。また病理組織像についても予定を超える症例数のデータを収集し、独自に開発した AI 技術に基づく構造化が進んだ。それらの両者を統合し、空間ゲノミクス技術も新たに取り入れ、生物学的な意義づけへと着実に進みつつある。</p>		